



自然薯の栽培方法を指導する政田敏雄氏（故）

自然薯はもと山に自生しており、日本人は昔からその自然薯を食べてきました。しかし、松茸のように見つけることが難しく、くねくねと曲がって生えるため、掘り出すのも大変な苦勞でした。そこで、「何とか栽培できないだろうか」と山口県柳井市の発明家である政田敏雄氏（故）が研究を重ね、昭和45年に自然薯の栽培方法を開発。昭和50年代初めから全国への普及活動を広め、静岡市駿河区丸子の「とろろ汁専門店『丁子屋』」にも訪れました。政田氏は、丁子屋の第12代店主柴山信夫氏と県下の農業協同組合にも栽培方法の普及に努めました。市内では、水田転作の作物として自然薯を植えてはどうかということになり、生産者数人が丁子屋を訪れたことをきっかけに、政田氏の指導を受けることになりました。これにより、昭和52年ごろから市内でも13戸の農家が自然薯の栽培に取り組み始めました。その後、各農家はそれぞれの地域でグループを作り、情報交換をしながら、研究を重ねていきました。平成22年の県内における自然薯生産高約16万本のうち牧之原市内の生産高は約6万2千本。県内の生産高の約4割

を占めています。県内の栽培面積は約8割で、うち本市内の栽培面積は約3割です。（静岡県自然薯研究会調べ）愛知県農業総合試験場山間農業研究所で自然薯を研究する番善宏研究員は、「自然薯は水はけが良い所を好みます。牧之原市はお茶の一大産地です。お茶も水はけの良い所で育つ作物なので、自然薯の栽培にも適しています。さらに、お茶と自然薯は作業体系がよく合い、お茶の作業の合間に自然薯の作業をすることができると、効率よく作物を育てることができると話します。このような好条件が自然薯の産地形成へとつながったと言えます。現在、県自然薯研究会に登録する市内の生産者は25人。



入賞の報告をする自然薯ファミリーの皆さん

**自然薯産地牧之原市の歴史**  
自然薯はもと山に自生しており、日本人は昔からその自然薯を食べてきました。しかし、松茸のように見つけることが難しく、くねくねと曲がって生えるため、掘り出すのも大変な苦勞でした。そこで、「何とか栽培できないだろうか」と山口県柳井市の発明家である政田敏雄氏（故）が研究を重ね、昭和45年に自然薯の栽培方法を開発。昭和50年代初めから全国への普及活動を広め、静岡市駿河

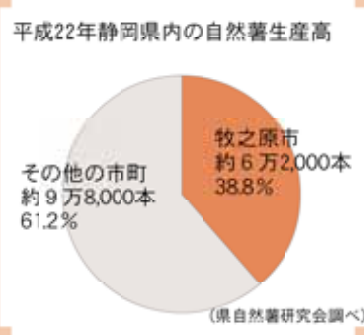
区丸子の「とろろ汁専門店『丁子屋』」にも訪れました。政田氏は、丁子屋の第12代店主柴山信夫氏と県下の農業協同組合にも栽培方法の普及に努めました。市内では、水田転作の作物として自然薯を植えてはどうかということになり、生産者数人が丁子屋を訪れたことをきっかけに、政田氏の指導を受けることになりました。これにより、昭和52年ごろから市内でも13戸の農家が自然薯の栽培に取り組み始めました。その後、各農家はそれぞれの地域でグループを作り、情報交換をしながら、研究を重ねていきました。

を占めています。県内の栽培面積は約8割で、うち本市内の栽培面積は約3割です。（静岡県自然薯研究会調べ）愛知県農業総合試験場山間農業研究所で自然薯を研究する番善宏研究員は、「自然薯は水はけが良い所を好みます。牧之原市はお茶の一大産地です。お茶も水はけの良い所で育つ作物なので、自然薯の栽培にも適しています。さらに、お茶と自然薯は作業体系がよく合い、お茶の作業の合間に自然薯の作業をすることができると、効率よく作物を育てることができると話します。このような好条件が自然薯の産地形成へとつながったと言えます。現在、県自然薯研究会に登録する市内の生産者は25人。

さらに良い自然薯を作ろうと日夜研究し、栽培に取り組んでいます。毎年1回、栽培技術の改善と品質向上を目的に静岡県自然薯品評会が、県自然薯研究会の主催で開催されます。この品評会では外観、灰汁、香り、粘度、食味の5項目について審査が行われます。毎年入賞者の約半数が本市の生産者です。24回目となる平成22年度の品評会では、入賞者16人中市内で7人が入賞。そのうち、最高賞である県知事賞を中嶋拓雄さんが受賞しました。

市内で自然薯の栽培が始まってからこととして34年目。牧之原市は静岡県自然薯品評会で好成績を上げるほどの高品質な自然薯の産地になりました。

## 品質の良さは御墨付き 県内生産高の4割を占める



高品質な牧之原産の自然薯  
毎年1回、栽培技術の改善と品質向上を目的に静岡県自然薯品評会が、県自然薯研究会の主催で開催されます。この品評会では外観、灰汁、香り、粘度、食味の5項目について審査が行われます。毎年入賞者の約半数が本市の生産者です。24回目となる平成22年度の品評会では、入賞者16人中市内で7人が入賞。そのうち、最高賞である県知事賞を中嶋拓雄さんが受賞しました。

# 牧之原市産自然薯 地域ブランドへの道

牧之原市は県内でも有数の自然薯（じねんじょ）産地です。知っていましたか。「自然薯を地域の特産品にしよう」と市内の生産者と飲食・宿泊業者が立ち上がりました。その熱き思いを持つ彼らを追いました。



平成22年度静岡県自然薯品評会で、県知事賞を受賞した中嶋拓雄さん（東萩間、右）と息子の雄一さん（左）